

組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：言語教育センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 1. 英語系では、初年次英語教育について、学生の英語のレベルごとに教育効果の向上を図るため、継続して授業方法の検討及びFD研修を実施する。 2. 英語系では、初年次英語教育の必修時間を増やす観点からカリキュラムの見直しを検討する。 3. 授業時間外学習の促進のため、イングリッシュ・カフェ並びに自主学習施設の更なる改良を行う。 4. 英語の科目ごとの到達目標をより明確にし、シラバスに反映させる。 5. 日本語系においては中級プログラムの教育効果向上を図るため、授業内容の検討やFD研修を実施する。 6. 日本語教育副専攻コース社会人受講者の修了認定体制を確立する。 7. 日本語系ではプレースメントテスト、履修登録、成績管理システムを一体化させた日本語Webシステムを本格実施し、蓄積したデータベースをもとに必要に応じてカリキュラムを見直す。 8. 異文化への理解を促進するため、日本人学生と留学生との交流事業および海外協定校との交流プログラムを実施する。	1. 英語系では、英語教育の効果の向上を図るため、教授法検討会、Teacher Development Workshopを開催した。また、日本人教員を対象に、発音矯正トレーニング、FD研修会を実施し、リーディング教育の取り組みを検討した。 2. 森田学長の要請をうけて、森田ウィジョンに対応する英語カリキュラムの新構想を検討し、授業数増加等の改善案を作成した。 3. イングリッシュ・カフェでは、授業時間外学習の促進のために、TOEFL クラスやTOEIC対策を実施した。また、自主学習施設での語学教材の貸出を実施し、学生の英語レベルに対応して教材の取り揃えを行った。 4. 英語授業の到達目標を、シラバスに具体的に明示した。 5. 日本語系では、(1)授業形態、教授法、学習項目、教材、(2)学習者の個人的要因(情意面)について、中級学習者のニーズ及び意識調査を行った。また、教育効果向上のために授業見学週間を設け、日本語教育研究会を8回、外部から講師を招聘し特別公開講座を3回開催した。これらは非常勤講師も含めた日本語教員の資質向上につながり、中級プログラム改善への参考となった。 6. 平成23年度日本語教育副専攻コース社会人受講者に対して、9月に第一回修了証書授与式を実施し、第一期修了生を輩出した。3月に第二回修了証書授与式を行う予定である。 7. 日本語系では、前期にプレースメントテスト、履修登録、成績管理システムを一体化した日本語Webシステムを稼働させた。この結果を基に来年度よりカリキュラムを一部変更することとした。 8. 初修外国語系では韓国・成均館大学校交流プログラムを開催し、新たに中国・上海理工大学交流プログラムも開始した。さらに、韓国語スピーチ発表会を開催し、韓国語とフランス語のカフェを新設した。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 1. 英語系では、学生の自学自習を支援するための方法等に関する研究を進める。 2. 初修外国語各語種共通の教授法改善に関する研究を進める。 3. 日本語においては中級プログラムに関する日本語学習者のニーズ調査を実施する。 4. センター全体で、教材の改善と有効な利用法の検討を行う。	1. 英語系では、学内COE教育支援経費「上級英語・Eラーニング・プロジェクト」として、前期にEラーニング教材を利用した授業を開講するとともに効果を検証するために7月末にTOEIC試験とアンケート調査を行った。 2. 初修外国語系では、より効果的な授業のありかたの具体的検討を開始した。また特別公開講座を開催して、言語や外国語教育に関する新たな情報を得た。 3. 日本語中級学習者を対象として、ニーズ調査を実施した。この調査に基づき、①中級では初級に比べ学ぶべき語彙・漢字・文型が急激に増え、習得に困難を感じていること、②談話展開の表現の習得に困難を感じていること、③日常生活での日本語とアカデミックスキルに必要な日本語の両方のニーズがあること、などが明らかとなった。 4. 英語系では、アカデミック・リーディングについて学生のニーズ調査を実施し、その結果をまとめて適正な教材および効果的な利用法を検討した。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③センター業務領域	自己評価
③-1 目標 共通外国語教育の立案・実施・改善に責任を持ち、全学的な観点から以下の業務を主導的に進める。 1. 共通外国語教育(大学院を含む)及び留学生のための日本語教育の実施計画策定とその遂行 2. 外国語教育FD活動の実施 3. 国際交流・連携事業の実施 4. 言語・外国語文化に関する、地域社会との連携事業の実施 5. 本学における外国語教育実施状況とその成果の広報 6. 外国語教授法研究・異文化研究の推進と支援	1. 英語系、初修外国語系ともに作業部会が中心となり、カリキュラムに基づく時間割の策定及びその実施に必要な業務を遂行した。初修外国語系では大学院向けの基礎科目を既に開設した。 2. 英語系では、教授法検討会と日本人教員のための研修会を実施した。また公開講座、特別公開講座、Teacher Development Workshop、My Share、Reading Groupを開催した。初修外国語系では教授法検討作業部会が中心となり、外国語教育法と主題科目について検討を行い、2科目の主題科目を新規開講した。日本語系では、FD活動として日本語教育研究会を8回開催した。 3. 初修外国語系では韓国・成均館大学校交流プログラムに加え、新たに中国・上海理工大学交流プログラムも開始した。また、韓国語スピーチ発表会を開催し、韓国語とフランス語のカフェを新設した。日本語系では、国際交流スピーチコンテストを開催した。 4. 初修外国語系では独検及び仏検の岡山地区での実施主体となり、また韓国語能力試験の実施を支援した。さらに、公開講座及び特別公開講座を開催した。 5. 年報及び言語教育センターパンフレットを発行するとともに、随時、言語教育センターのホームページを更新した。 6. 英語系および初修外国語系では特別公開講座を通じて、言語や外国語教育などについて新たな視点を得た。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
④社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
④-1 目標 1. 外国語の学習を通して人と文化についての理解を深めるといった視点から以下の業務を主体的に進める。 ① 一般市民に公開された講座や講演を実施する。 ② 英語を共通言語とする異文化理解のための公開行事を実施する。 2. 各種外国語運用能力に関する外部の検定試験の実施を支援する。 3. 高校生などを対象に大学における英語授業を体験する機会を設ける。 4. 日本語系では引き続き日本語教育副専攻コースに社会人を受け入れ、大学と社会との連携を深める。	1. ①初修外国語系では一般市民向けの特別公開講座を開催した。 ②英語系では、International Night を実施した。 2. 初修外国語系では独検及び仏検の岡山地区での実施主体となり、また韓国語能力試験の実施を支援した。 3. 英語系では、「イングリッシュ・オン・キャンパス」を開催した。また、「高校生のための大学講座」を実施した。 4. 平成23年度は日本語教育副専攻コースに新規2名。継続生3名の社会人受講者を受け入れた。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】 本年度は、全学的な視野から言語教育の企画・実施・評価及びその改善を主導的に行う事を推進した。特に、森田ビジョンに対応するために、全学英語カリキュラム新構想の策定、グローバル人材コースにおける言語教育のカリキュラム、交流プログラムの充実、授業時間外学習の充実のためにイングリッシュカフェを中心とした言語カフェの充実を図った。特に、イングリッシュ・カフェでは、レッスン参加希望学生のニーズに合わせて、新たなプログラムを企画したり、学生チャーターの増員を図るなどして、利用学生数増加に伴うニーズの多様化に対応した。さらに、改修・拡張工事が行われたことにより、大幅な環境改善が行われ、対前年度利用者数の増加や学生満足度の向上に反映された。さらに、留学生と日本人学生の交流の場や地域の人への外国文化紹介など多彩なイベントを企画した。来年度は、森田ビジョン達成のために提案した具体案を実現できるようにさらに検討を行う予定である。	